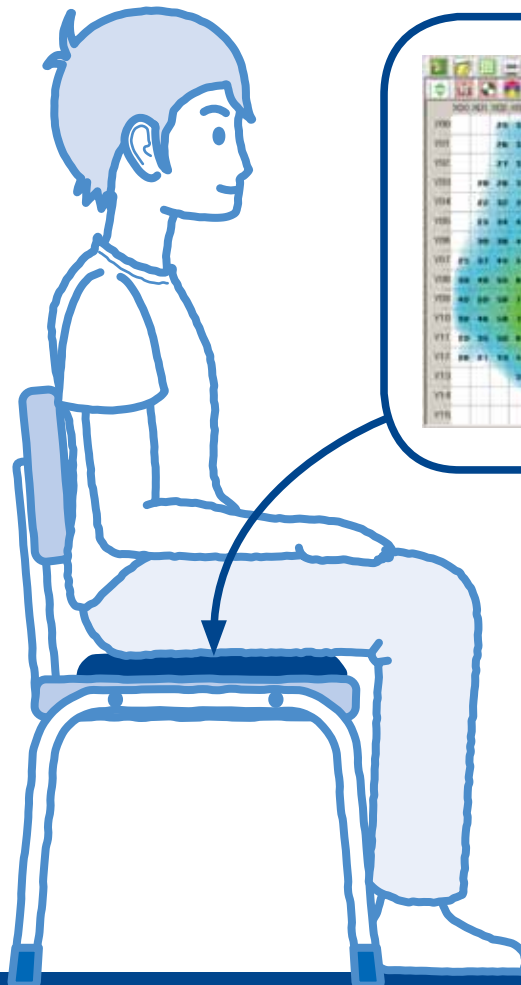


タイアツツ!

Vol. 1

シヨウジキ
体圧は



プラネット福祉用具アワード
受賞

「タイアツ」でわかる“あれこれ”

Interview

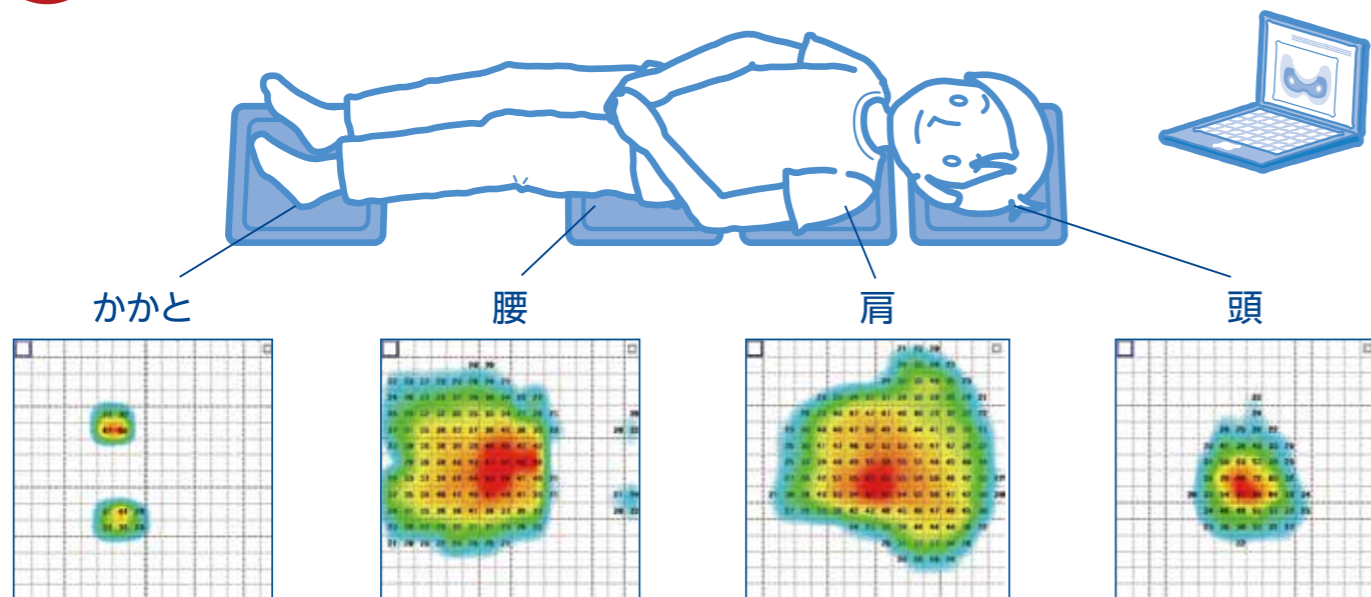
- 看護の現場でこそ生きる体圧測定の客観性
- 数字ではっきり分かれると、「快適」と「納得」が生まれるんです
- 「ここが痛い」を代弁。最適なクッション選びにつながった!

「タイヤツ」でわかる“あれこれ”

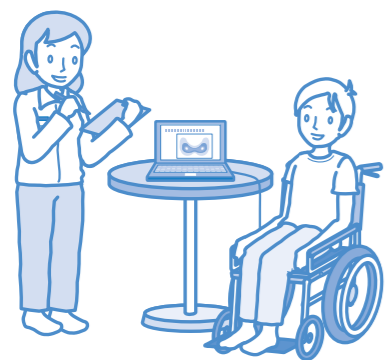
～体圧分布・バランスを表示～

1 床ずれリスクの管理

- 床ずれがしやすいおしりや腰は要チェック。
- 見逃しやすい頭やかかとも忘れずに。

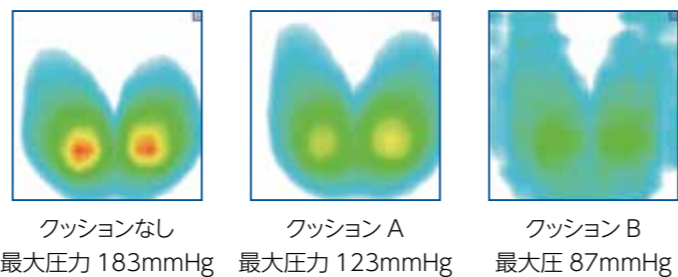


2 車いす、クッション、マットレスの選定



クッションごとの
最大圧力の計測

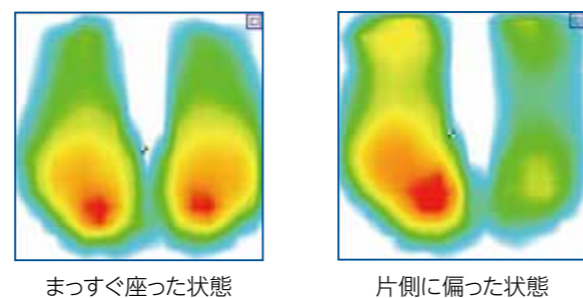
- 納得のフィッティングをお手伝い。
- 客観的なデータ確認で利用者と家族に安心を。



3 バランスの確認



- マーカー表示でバランス状態がひとめでわかる。
- リハビリのやる気UP。



体圧分布をカンタンに! 《SRソフトビジョン》のご紹介

詳細データの測定・保存



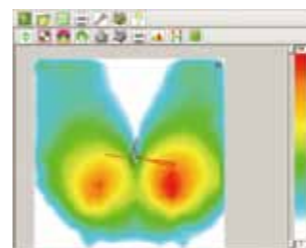
ひとめでわかるカラー表示

面圧中心表示

製品ラインナップ

SRソフトビジョン
分布版

お求めやすい
エントリーモデル

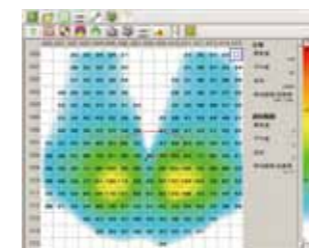


表示画面イメージ

医療、介護現場での使用に適した
リーズナブルな価格を実現。

SRソフトビジョン
数値版

詳細データも
測定可能!



表示画面イメージ

256 (16 × 16) 箇所の圧力を数値
で表示。詳細なデータ解析が可能。

SRソフトビジョン
無線版

スマートフォン・タブレット
での表示が可能



※タブレットなどの表示端末はシステムに含まれません。

無線LANで接続を実現。操作性とポータ
ビリティが向上。



福祉用具プランナーネットワーク主催
**プラネット福祉用具
アワード受賞**

「プラネット福祉用具アワード」とは：
日本国内で発表される福祉用具
の中から、年間を通じて優秀であ
ると支持を集める福祉用具を選定
し、その福祉用具にこの賞が与え
られます。

看護の現場でこそ生きる 体圧測定の客観性

大阪医科大学 看護学部 看護学科
准教授 松尾 淳子 さん

褥瘡を減らすキーワードは 「可視化」

褥瘡予防に長年携わってきて思うのは、体圧の可視化、つまり“見える化”がいかに重要かということ。体圧分布を分かりやすい画像や数字で表し、目に見えるようにすることで、褥瘡の予防や改善だけでなく、現場のさまざまなところでプラスの作用がもたらされます。

まず「褥瘡予防や改善」についてですが、これは明らかな効果が出ます。看護の現場では、褥瘡予防に努めているのになぜか一向に褥瘡が改善しない、あるいは再発を繰り返すといったことがよく起こっています。原因は、体圧を数値によって「定量評価」していないことにあります。

一般に体圧測定は、簡易体圧測定器を用いて行います。これは骨突出部位周囲10cmの体圧値を測定するもので、リスク評価を行うことができます。一方、シートタイプはそれより広範囲の体圧を測定し、姿勢の変化による圧の変化をビジュアルで確認することができます。広範囲の体圧を数値や画像でとらえることで、これまで分からなかった「見えない変化」に気づくことができます。

思いもよらない発見ができる

例えば、褥瘡が改善しない患者さんに対し、ティルト式車いすの角度を変えながら体圧測定を行ったところ、これまでベストだと思っていた角度が、実は最も負荷が高いことが分かりました。測定数値を見ながら角度を見直したところ、褥瘡がどんどん改善。

角度の変化によって、体圧がどう変動するかも明らかになりました。

こんなケースもあります。ある病院で、急に褥瘡が増え始めたので、ベッドに寝ている患者さんの体圧測定調査を実施。すると、新品のマットレスに寝ている患者さんより、使用年数を経たマットレスに寝ている患者さんのほうが、ギャジアップ時に2倍の体圧がかかっていることが判明しました。マットレスが古くなり、へたりが生じていることが、褥瘡の急増に関係していることが分かったのです。

この結果をもとに、マットレスを少しずつ交換したところ、褥瘡の発生はピーク時の10分の1にまで減少。もし体圧測定しなければ、原因を突き止められず、現場は褥瘡に悩み続けていたでしょう。

ケアの開発力を育てる効果も

もう一つの大きなプラス作用は、体圧測定が「コミュニケーションツール」となり、情報の共有化ができる点です。体圧を画像や数値で可視化できると、それがスタッフ間の“共通言語”となり、ポジショニングへの意識が高まります。シートタイプのセンサー測定器なら、パソコン画面でリアルタイムの体圧変化を見ることが可能なので、チームで「ああでもない、こうでもない」とディスカッションしながら、ケアの統一化を図ることができます。また、ポジショニング手法の共有や、体位変換のスケジューリングにも役立ちます。



体圧のビジュアル化で 看護スタッフの意識が 変わりました



以前から褥瘡ケアに力を入れており、数年前までは簡易体圧計を使って測定していました。しかし、測定できる範囲が小さすぎて、座面のどこに大きな負荷がかかっているか、その全体像が把握できませんでした。しかし、松尾先生にシートタイプのセンサー測定器を紹介していただき、使用したところ、臀部全体の体圧が測定できるように。これによって、効果的な除圧ができ、手をこまねいていた褥瘡が目に見えて減少しました。「私たち看護師でも褥瘡を改善できるんだ！」という自信にもつながりました。

シートタイプのセンサー測定器によって、本当に除圧ができていないかどうかを目で判断できるようになったのも大きな成果です。「やったつもり」のシーティングによって、適切な除圧ができていないスタッフに測定画面を見せると、「おお!!」という声が上がリ、すぐに改善に取り組んでくれます。「患者さんの良い姿勢づくり」に対する意識が、いい意味で180度変わりましたね。

ケアだけでなく、スタッフの「教育・研修」にも大いに役立ちます。ポジショニングやシーティングは、患者さんに合わせたケアのカスタマイズが必要です。しかし、それを実現するには、ケアの効果を客観的に測るデータが不可欠。データを見ることで、全体を把握し、個々に応じた適切なケアにつなげることができます。また、これによって新たなケア方法の開発に結びつけることができるのです。

私は、現場での研修はもちろん、看護の基礎教育にも体圧の可視化をぜひ取り入れてほしいと思っています。新たなプロセス創生へのフィードバックする能力を育てるためにも、重要なことではないでしょうか。



第二東和会病院 看護部師長
橋本 美香 さん

数字ではっきり分かった、 「快適」と「納得」が生まれるんです



長崎北病院 総合リハビリテーション部
作業療法士長 山田 麻和 さん

なぜSRソフトビジョンを 導入されたのでしょうか。

患者様の「痛い」という訴えを、数字で見ることができるからです。当院には、脳卒中やパーキンソン病の患者様が多く、重度の場合は自分の筋力で座ることができず、座位がずれたり、体が傾いたりすることで体圧が偏ります。これが「痛み」となり、褥瘡へと発展します。



これまでは、リハビリスタッフが手を座面に差し込み、体圧を感覚で測っていたのですが、やはりスタッフによって感じ方に違いがあります。この個人差をなくし、体圧を「見える化」することで痛みの部位を特定し、快適な座り姿勢を実現できないものか…。そんな悩みを抱えていたときに出会ったのが、SRソフトビジョンでした。

体圧の数値化に必要性を感じておられたのですね。 すぐに導入を決定されましたか？

実は、SRソフトビジョンの前に、他社製を検討していました。しかし、測定数値が安定しない、操作法が分かりにくい、値段が高いといった難点があったんです。そんなとき、ある大学の先生からSRソフトビジョンを紹介していただき、「これは使える」と思いました。使い方がシンプルでコードレス。測定結果をiPadに無線で映し出すこともできますし、シート部分が柔らかいゴム製なので、壊れにくく持ち運

びも簡単でした。何より、コストパフォーマンスの高さを感じ、導入を決めました。

痛みを「見える化」することで、どんな メリットが生まれたのでしょうか。

患者様やご家族に「納得」が生まれたことですね。痛みや褥瘡の改善には、車いすに敷くクッションの交換が効果的ですが、口頭で「クッションを買い変えましょう」と説明しても、お金がかかることだけに、なかなか理解が得られませんでした。しかし、SRソフトビジョンは、数字だけでなく色で体圧分布が分かるので、クッション交換のビフォー・アフターが一目瞭然。効果が目に見えることで、福祉用具の適切な選定ができるようになりました。

もう一つ、麻痺によって痛みを感じられない患者様に対して、とても有効です。痛みの感覚がないと、体圧が偏っていても、それがご本人には分からず、褥瘡ができやすくなります。こうした“声なき痛み”を数字や色で表すことで、褥瘡予防が大きく進展します。

実際に「痛みや褥瘡が改善した」という例はありますか？

はい。90歳の女性患者様のケースですが、この方は、車椅子生活するほどではないものの、座ると臀部に痛みを感じておられました。もしその状態で退院すれば、寝たきりに逆戻りする可能性があると感じ、体圧を測定。せめてクッションだけでも座りやすいものをとお勧めした結果、安心して退院していかれました。

インタビューからわかること

明らかに高まったシーティングの質

県内屈指のリハビリテーションルームを持つ長崎北病院。病床数は200床、スタッフは131名在籍しています。特徴的なのは、院内に「シーティング委員会」があること。各病棟に3~5人のシーティング担当が配置され、SRソフトビジョンで体圧を測定し、シーティングの質を高めています。また、山田さんの声がけで、県内に「長崎シーティング研究会」が発足。施設の枠を超えた勉強会や情報発信が行われています。



長崎北病院 外観

病院概要

法人名	社会医療法人春回会
病院名	長崎北病院
理事長	井上 健一郎
院長	佐藤 聡
病床数	200床
スタッフ数	450名(平成27年4月1日現在)
所在地	長崎県西彼杵郡津町元村郷 800



また、ティルト式車いすとリクライニング式車いすとは、リクライニング式のほうが仙骨に褥瘡ができやすい傾向があります。このことが目で見て分かるよう、体圧分布の資料を作ってスタッフに配布したところ、褥瘡の治り方が早くなりました。

リハビリ室だけでなく、 ベッドサイドでも効果があったとか。

体圧が視覚的に分かるので、負担の少ないベッドや車椅子への移乗法を説明するとき、ナースの理解が得られやすいです。ドクターの反応も良好でした。また、ベッドでのポジショニングにもSRソフトビジョンを使っています。特に、急性期の患者様へのギャッジアップがいかに仙骨に負担をかけるか、ナースに説明するのに役立っています。食事をするときも、ベッドの上ではなく車いすに座って食事をしたほうが、飲み込みやすく、食事の摂取量が増えて早期回復につながりますからね。

病院スタッフの意識が変わったと 聞いています。

自分の感覚ではなく、きちんと体圧を測って判断するという意識が根付いたように思います。多いときは1日に3~4回もSRソフトビジョンが使われています。

今後は、ナースやケアマネジャーにまで利用を広げたいですね。リハビリ室で体圧を測定するだけでは、本当の意味での座位改善にはつながりません。病室でも自宅に帰っても「いい座り姿勢」を維持できるように、体圧測定の重要性をもっと伝えていきたいですね。



「ここが痛い」を代弁。

最適なクッション選びにつながった！



ベッドで過ごす時間が多いご主人を奥様が献身的に介護するAさん宅。Aさんは脳血管障害による高次脳機能障害により、意思表示が困難です。先日、デイサービスのスタッフから、「車椅子に乗って2時間ほど経つとAさんがしかめっ面をする」という報告を受けたそうです。

数字だから納得できた

「オムツ交換の時に尻の皮膚の状態を注意して見ていましたが、特に異常はなく、原因がわからなくて不安でした」と奥様。そこで訪問看護ステーションのリハビリ担当者である三瓶政行さん(作業療法士)に相談したところ、「クッションが合っていないかもしれませんね。一度、体圧を測定してみましょう」と提案され、SRソフトビジョンで座位姿勢時の体圧測定を行いました。「測ってみると、右の坐骨に強い圧力(100mmHg以上)がかかっており、長時間の座位保持では圧迫により痛みが生じる可能性があることが分かりました」と三瓶さん。奥様も「以前から、クッションが固いのでは?と施設の方にも言われていたのですが、クッションを交換することが適切かどうか判断しかねていました。でも、数字で表示されたことで、クッションが合っていなかったのだと納得できました」と話します。



三瓶さんは、SRソフトビジョンでの測定値をもとに、Aさんに適したクッションをアドバイス。最終的に、5つの

- クッションの中から一番合ったものを選定し、購入に至りました。
- 「Aさんのお宅は、介護保険の限度額の関係でクッションをレンタルではなく購入されました。高価なものだからこそ、感覚で選ぶのではなく、数値で最適だとわかるものを慎重に選んでほしかったんです」(三瓶さん)



～体圧測定結果報告書～

持ち運びに便利

三瓶さんがSRソフトビジョンに注目するきっかけとなったのは、以前の職場の先輩理学療法士(シーティングコンサルタント協会理事)。「当事業所でシーティングをテーマとした研修会を開催した際、講師として先輩をお招きしました。そのとき、SRソフトビジョンを使用して体圧測定することの重要性を教えてくださいました。こんなに広い面積を一度に測れる体圧測定器を見たのは初めてでした。そして、無線版ならいちいちパソコンやコードを持ち歩く煩わしさもないので、これなら訪問に活用できると思いました」

スタッフ向けの共通理解

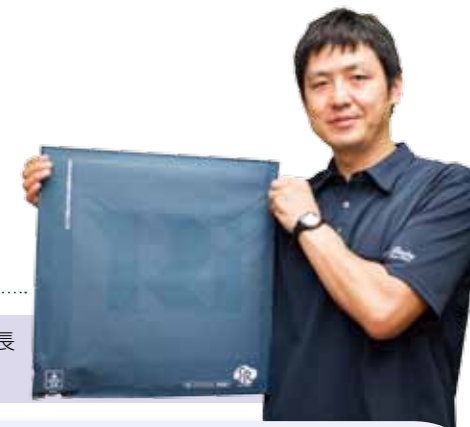
現在、さまざまな在宅現場でスマートフォンやタブレットと連携してSRソフトビジョンを活用。体圧分布が視覚や数値で分かることで、介護施設スタッフとの意思疎通がスムーズになった点もうれしい結果だといいます。「車椅子やクッションが合っていないのでは?と提案してもスタッフそれぞれの見解があるので、共通理解が得られるまでに時間がかかっていました。しかし、こうして数値化されると、提案の説得力が増します。体圧測定結果は報告書としてまとめ、新しい介護用具の導入などにも生かしています」。

介護する家族に、クッションの必要性を理解してもらえるようになったとも。Aさんの奥様も「数字で体圧がわかると、クッションを選ぶとき『これが最適なんだ』と確信が持てますよね」と微笑みます。

株式会社ベルツ 在宅リハビリテーションセンター草加

看護師8名、理学療法士16名、作業療法士9名、言語聴覚士1名が在籍する訪問看護ステーション。リハビリ科の特徴として、療法士たちは、対象者のリハビリテーションの効果を最大限に引き出すために、運動機能面・精神機能面へのアプローチだけでなく、予防も含めた全身状態管理に大きく力を入れている。また、他職種や家族へリハビリテーション効果をデータとして可視化して提示することも重要視している。

訪問看護部 リハビリ科 教育担当科長
作業療法士 三瓶政行さん



ティルトリクライニング機能を使って効果的に除圧

脳血管障害による運動機能障害(左片麻痺)があるBさん。認知症による活動性低下もあり、意思表示が思うようにできません。日中は車椅子座位で過ごされることがほとんど。介護を担う娘さんが、Bさんの仙骨部に小さな褥瘡を見つけたことが、体圧測定を三瓶さんに依頼するきっかけになりました。

「母が入院していた頃、病院の理学療法士が体圧を測ってくれたことがあったので、SRソフトビジョンの存在は知っていました。だから、



ベルツさんで同じものを導入したと聞いたとき『それならぜひ測ってほしい』とお願いしました」と娘さんは話します。

車椅子に乗ったとき、足を組むクセがあるBさんは、測定の結果、仙骨部の左側に強い圧力がかかっていることが判明。三瓶さんは、褥瘡悪化予防のためには適したクッションを使用するのはもちろんのこと、車椅子座位の際に定期的な除圧が必要と判断しました。

「Bさんが使用している車椅子はティルトリクライニングタイプでした。ティルト機能を使って座面の角度を変えることで、座面と背部の体圧を受ける割合が変化し、楽に除圧効果を得ることができました」。三瓶さんは、SRソフトビジョンを使用し、リアルタイムの体圧変化を視覚的に確認していただき、30分ごとに座面の角度を変えて定期的な除圧をする方法をご提案しました。「ほかにも、座っている時間を減らすために、お昼寝の時間を少し長くしようとか、母の円背に合わせて車椅子のバックレストの形状に丸みを帯びさせてくれたりと、クッション以外での対策をいろいろ考えてもらっています」と娘さんは話します。

さらに長期使用によってクッションにへたりが出ていない

かを確認するため、数ヶ月に一回、定期的な体圧測定を行っています。「母は自分でお尻の位置を動かすことができません。だから、褥瘡ができる前に、可能性のある部位が特定できるのは安心。数字や色分けされた分布図で体圧がわかるので、医療従事者でない私でも一目で理解できます」

測定で思わぬ発見

また、体圧を測定することで、新たな発見もあると三瓶さん。「実際に測定してみると、姿勢から予測した体圧分布とは裏腹に、予想もしていなかった部位に強い圧がかかっていたケースもありました。また、良かれと思ってやっていたエアマット+褥瘡予防パッドの併用が、逆に体圧を高める原因になっていることもありました。客観的なデータを通して事実を知ること、改めて『思い込みは怖いな...』と考えさせられましたね」

Bさんは現在、日中のほとんどを、ベッドではなく車椅子で過ごしています。「できるだけ座れる状態を保たせてあげたい」と娘さん。「母は自分の思いを口に出すことがほとんどありません。だからこそ、感覚で話されるよりも、数字や色で提示してもらったほうが理解が進みます。SRソフトビジョンは、母の言葉を代弁してくれているようなもの。自宅に置いておきたいくらいですよ(笑)」



住友理工株式会社の“モノ”づくり

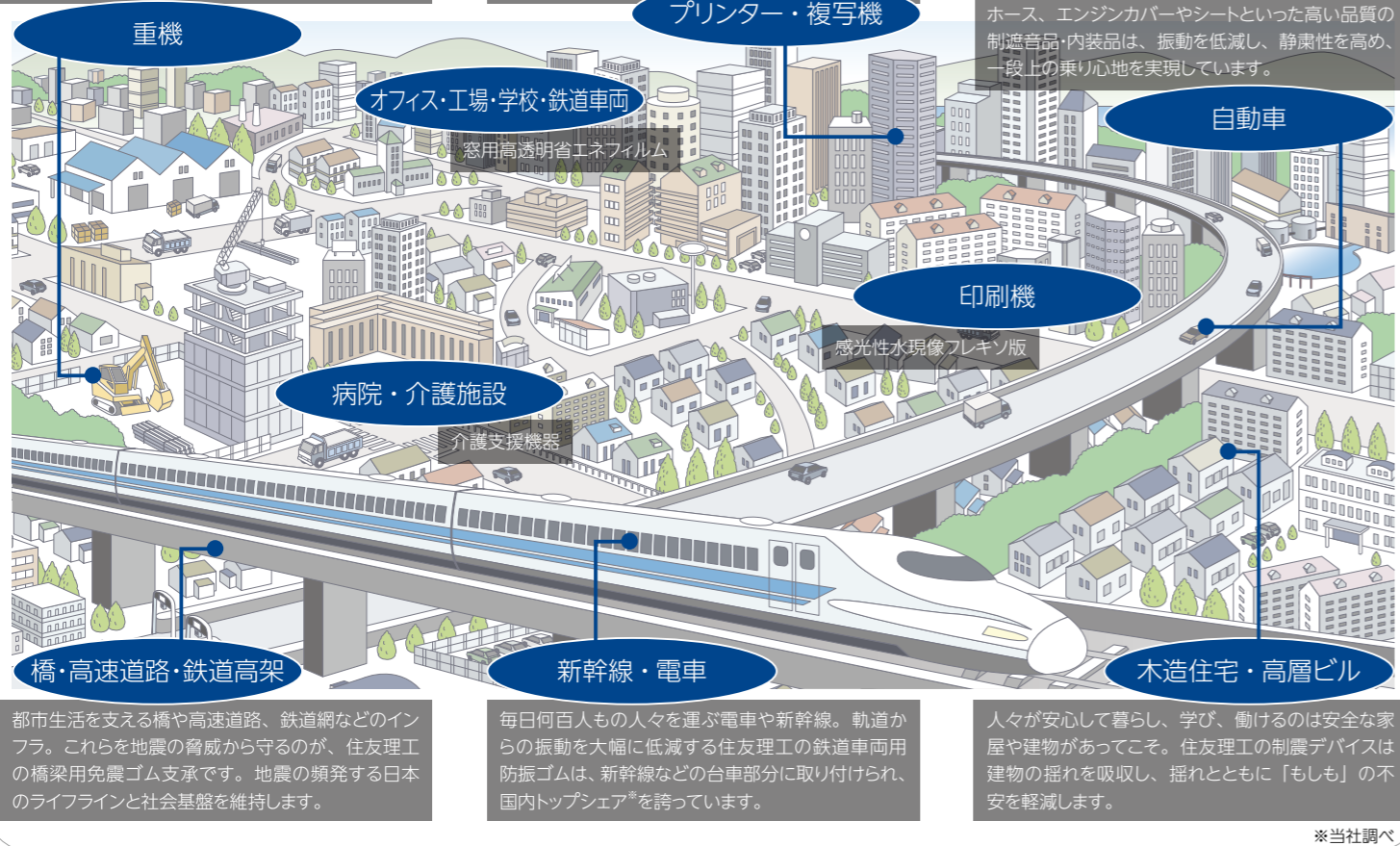
社会のあらゆるシーンで使われている住友理工の製品。その多くは、普段なかなか目にすることはできませんが、陰で私たちの暮らしを支えています。
たとえば、移動に欠かせない自動車や、電車・新幹線など鉄道車両の台車部、日本の伝統的な木造家屋や都心部にそびえ立つ

高層ビルの内部。ミクロンレベルの精度が要求されるプリンター・複写機の心臓部から巨大な橋の橋脚まで—当社製品の活躍の場は大きく広がっています。
住友理工は、創業以来培ってきた高分子材料技術とモノづくりの精神で、明日の快適を創造し続けます。

都市の創造や再生を担う建設・土木機械。住友理工の高圧ホースは、建設現場で活躍するショベルカーや、資源掘削（マイニング）用の超大型油圧ショベルカーなどに使われ、高い耐久性を実現しています。

IT化の進む現代でビジネスや教育に欠かせない情報通信機器。プリンターや複写機の心臓部には、画質を大きく左右する住友理工の重要機能部品が詰まっています。

最も身近な移動手段である自動車。ドライバーと同乗者の「安心」「安全」はもちろん、さらなる「快適」の提供を目指すのが住友理工の自動車用品です。世界シェアトップ®の防振ゴムや国内シェアトップ®のホース、エンジンカバーやシートといった高い品質の製造部品・内装品は、振動を低減し、静粛性を高め、一段上の乗り心地を実現しています。

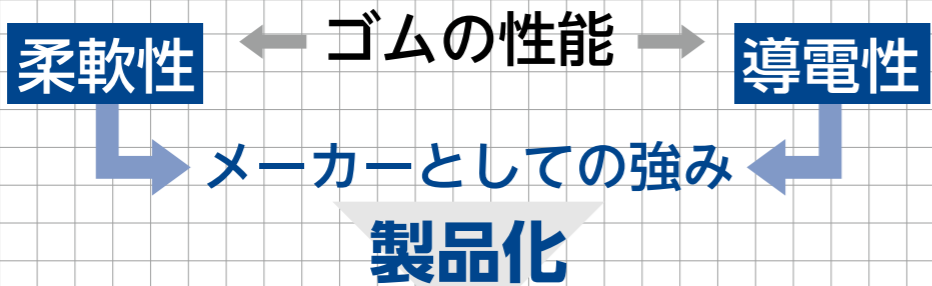


都市生活を支える橋や高速道路、鉄道網などのインフラ。これらを地震の脅威から守るのが、住友理工の橋梁用防震ゴム支承です。地震の頻発する日本のライフラインと社会基盤を維持します。

毎日何百人もの人々を運ぶ電車や新幹線。軌道からの振動を大幅に低減する住友理工の鉄道車両用防振ゴムは、新幹線などの台車部分に取り付けられ、国内トップシェア®を誇っています。

人々が安心して暮らし、学び、働けるのは安全な家屋や建物があるからこそ。住友理工の制震デバイスは建物の揺れを吸収し、揺れとともに「もしも」の不安を軽減します。

※当社調べ



スマートフォン・タブレットでらくらく計測 SRソフトビジョン(無線版)

SRソフトビジョン(無線版)は、SRソフトビジョン(数値版)と無線化キットのセット商品です。お手持ちのスマートフォン・タブレット端末に専用アプリをインストールいただき、無線化キットとタブレットを無線LANで接続します。パソコンでの計測は、SRソフトビジョンとパソコンを結ぶコードが邪魔になりがちですが、無線版はコードレスですから様々なシーンでストレスなく計測ができます。SRソフトビジョン(無線版)で取得したデータはSRソフトビジョン(数値版)データと互換性があり、パソコンに保存したり分析したりすることも可能です。



※スマートフォン、タブレットなどの表示端末はシステムに含まれません。

導入までのステップフロー

- 1** 電話、FAX、E-mail または 縦じ込みはがきで お問い合わせください。

電話 0568-77-2975
FAX 0568-77-2976
E-mail tri-health-contact@jp.sumitomoriko.com
- 2** 弊社担当者および 代理店担当者 と打ち合わせください。

デモ機で お試しください。
- 3** 導入後も全国代理店、 カスタマーセンター で必要に応じ サポート相談に対応します。

イベントスケジュール (2015年度実績)

展示会	学会
	4月
4月16日~18日 パリアフリー 2015 (インテックス大阪)	
	5月
	6月5日~7日 日本理学療法学会 (東京国際フォーラム)
	6月
	6月19日~20日 日本作業療法学会 (神戸ポートピアホテル / 神戸国際展示場)
	7月
7月15日~17日 モダンホスピタルショウ (東京ビッグサイト)	
	8月
	8月28日~29日 日本褥瘡学会学術集会 (仙台国際センター)
	9月
10月7日~9日 HCR(国際福祉機器展) (東京ビッグサイト)	9月8日~9日 日本看護学会・看護管理・学術集会 (福岡国際会議場 / 福岡サンパレス)
	10月
	10月10日~11日 看護理工学会学術集会 (立命館大学朱雀キャンパス / 京都)
10月29日~31日 西日本国際福祉機器展 (西日本総合展示場)	
	11月
	12月
	12月5日~6日 日本看護科学学会学術集会 (広島国際会議場)

住友理工株式会社 健康介護事業室

<http://www.sumitomoriko.co.jp/product/health/products.html>

Interview Index



長崎北病院 総合リハビリテーション部
作業療法士長 山田 麻和 さん

数字ではっきり分かった、「快適」と「納得」が生まれるんです

長崎北病院の総合リハビリテーション部で作業療法士長を務める山田麻和さん。体圧分布の“見える化”に課題を感じていたとき、SRソフトビジョンに出合ったそうです。導入後は、院内スタッフだけでなく、患者様にもシーティングの重要性が伝わるようになったとコメントくださっています。



http://www.sumitomoriko.co.jp/product/health/srsv/video/Interview_2.mp4



株式会社ベルツ
在宅リハビリテーションセンター草加
訪問看護部 リハビリ科 教育担当科長
作業療法士 三瓶 政行 さん

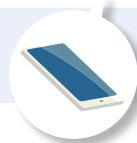
「ここが痛い」を代弁。最適なクッション選びにつながった!

株式会社ベルツで作業療法士を務める三瓶政行さん。福祉用具の選定時、ご家族や他職種または他施設のリハビリスタッフと意見が別れることに悩んでいましたが、SRソフトビジョンと出会い、意思疎通が図りやすくなったそうです。また、それ以外にもリハビリ介入前後の体圧の即時変化を可視化して提示できるため、講義等の際にはSRソフトビジョンのデータを積極的に提示してエビデンスとして役立てているそうです。



http://www.sumitomoriko.co.jp/product/health/srsv/video/Interview_3.mp4

今回のインタビュー内容がスマホでチェックできます。



本誌(タイヤツッ!)の
ダウンロードはこちら



<http://www.sumitomoriko.co.jp/product/health/user.html>

SRソフトビジョン情報誌

タイヤツッ! Vol. 1

※住友理工製品及び関連資料等に記載されている会社名及び製品名は、各社の商標、または登録商標です。

お問い合わせ
ご相談は

フコク物産株式会社

〒143-8531 東京都大田区大森西2丁目32番7号
特販営業部 Tel:03-3765-3228
<http://www.fukoku-jp.net/srsoftvision/>

製造元

住友理工株式会社

健康介護事業室 Tel:0568-77-2975
<http://www.sumitomoriko.co.jp/product/health/products.html>

この冊子に記載している内容は、予告なく変更される場合があります。
2015/9 ver.01